

ジェイテクト「環境チャレンジ2050」

～未来の子供たちのために～

1. ジェイテクトの取り組み

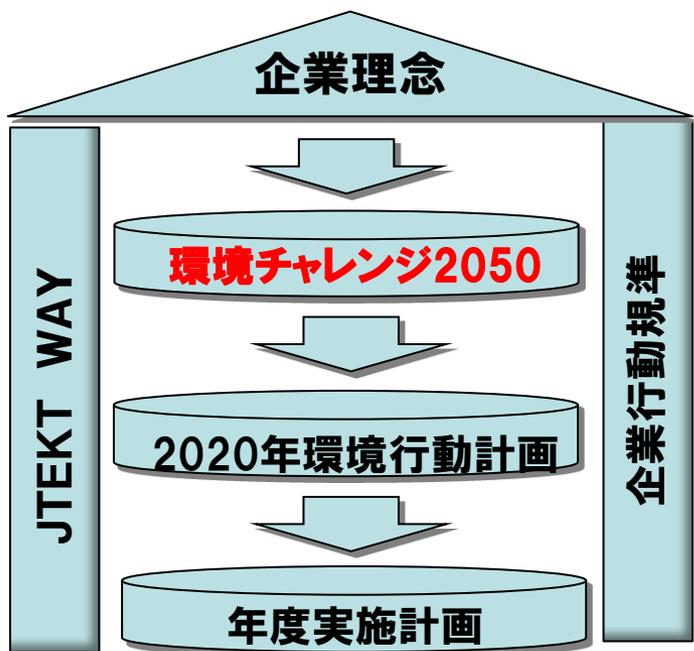
【取り組みの経緯】

年度	～2005	2006～2010	2011～2015	2016～2020
動向		●京都議定書発効	●COP10(愛知)	
	光洋精工	◆CSR方針策定		◆JTEKT WAY
		◆JTEKT VISIN2015		◆JTEKT GROUP VISION
環境中期目標	豊田工機	環境取り組みプラン	2015年環境行動計画	2020年環境行動計画
			◆生物多様性保全行動指針	◆環境チャレンジ2050

環境負荷極小化社会に向け、「環境チャレンジ2050」を策定

2. 環境チャレンジ2050

2050年に向けた取り組み指針として策定



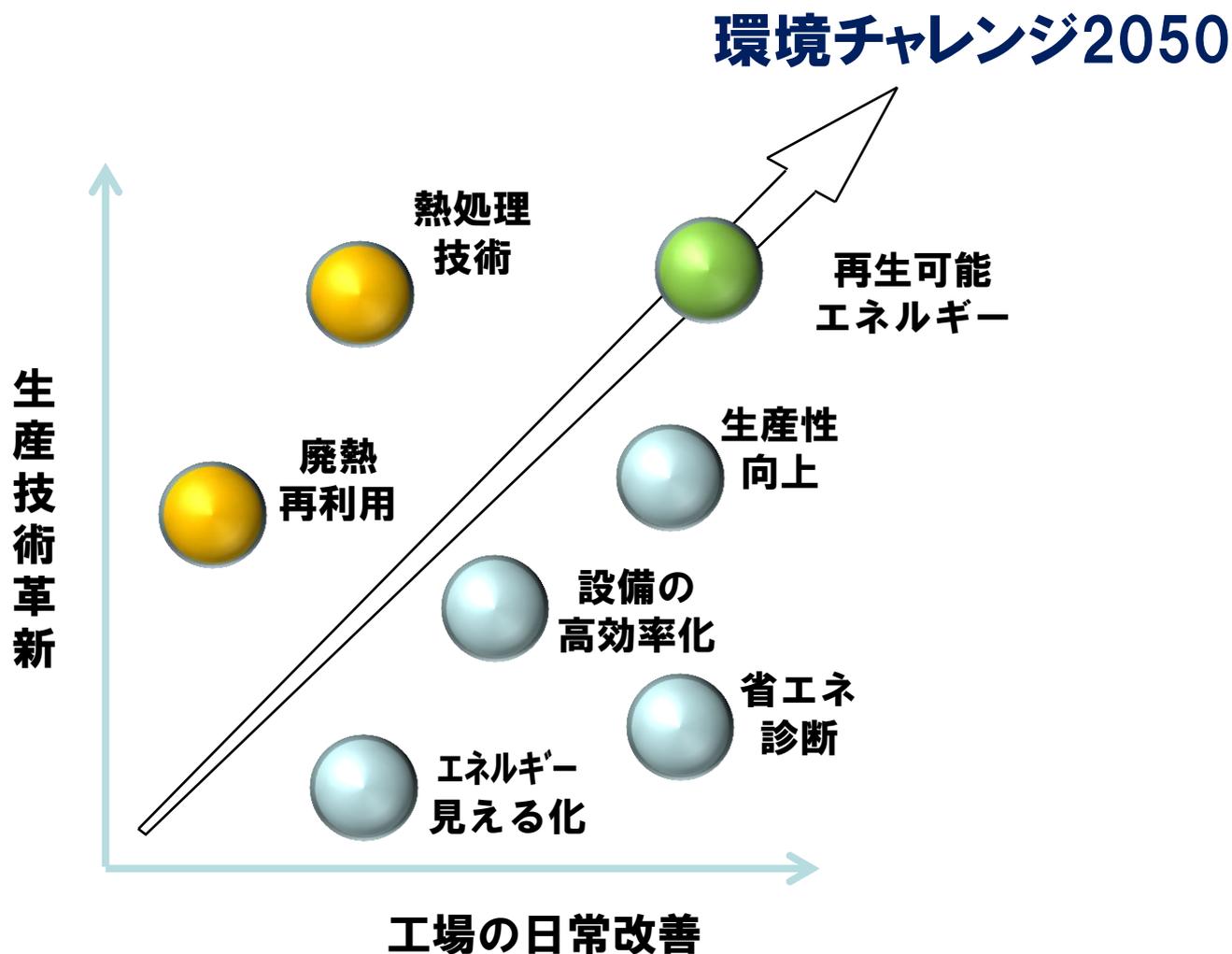
環境チャレンジ2050

区 分	指 針
(1) 製品・技術	製品・技術開発力を活かし、 環境社会へ貢献
(2) 低炭素社会 の構築	・製品のライフサイクルで排出される CO ₂ を極小化 ・工場で排出されるCO ₂ を極小化
(3) 循環型社会 の構築	・排出物の極小化と再資源化の拡大 ・水使用量を極小化
(4) 自然共生・ 生物多様性	関係機関と連携し、自然共生・生態系 保護の活動を推進
(5) 環境 マネジメント	地球環境保全を積極的に進められる 企業風土と人づくり

**環境負荷の極小化、環境価値の最大化に向け、
ジェイテクトグループでチャレンジ！**

3. 目指す姿

【工場のCO₂極小化に向けた取り組み】



目指す姿（技術・研究開発）

【工場のCO₂極小化に向けた技術・研究開発】

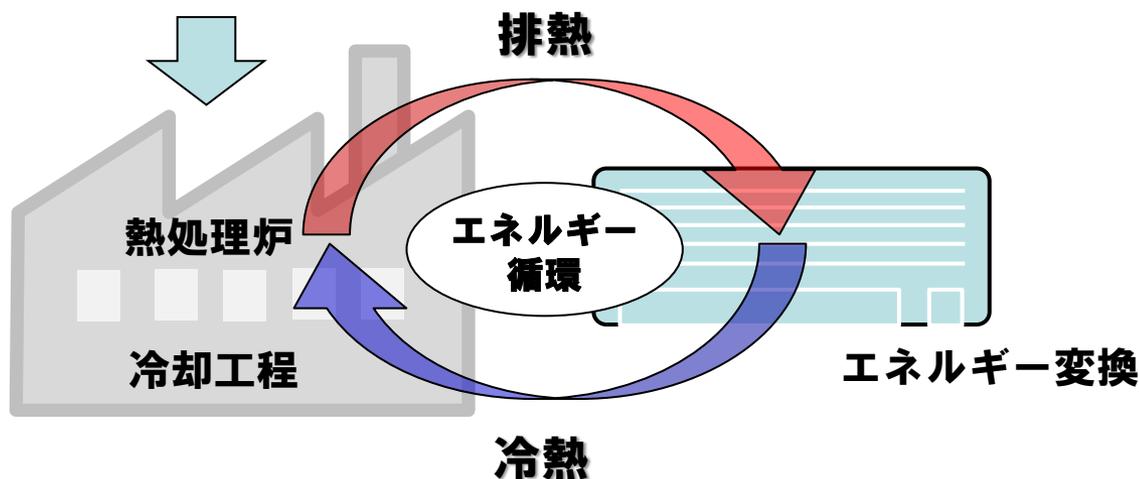
■排熱再利用技術（熱変換技術）の研究

工場排熱から冷熱を作り出し、冷却工程の投入エネルギーを低減

■革新熱処理技術の研究

浸炭焼き入れに代わる革新熱処理技術によるエネルギーの低減

革新熱処理技術の導入

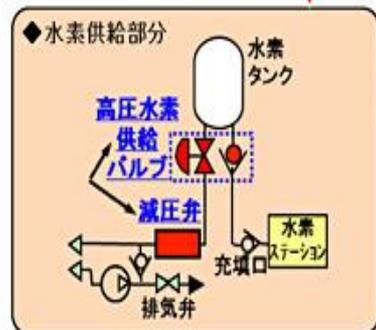
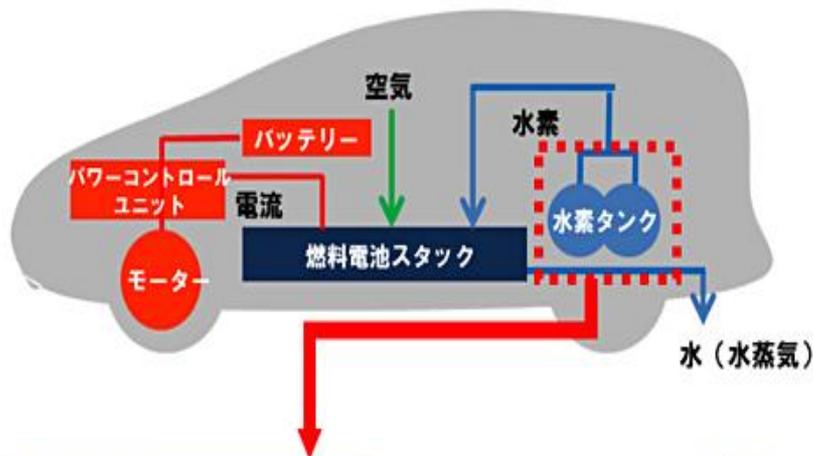


3. 目指す姿（製品開発）

【製品開発でCO₂極小化社会の実現に貢献】

■ FCV関連部品

水素利用社会の実現に貢献



高圧水素供給バルブ

減圧弁

■ステアリング製品

RP-EPS:高出力化による省エネへの貢献
→燃費低減に貢献するEPS適用車種の拡大



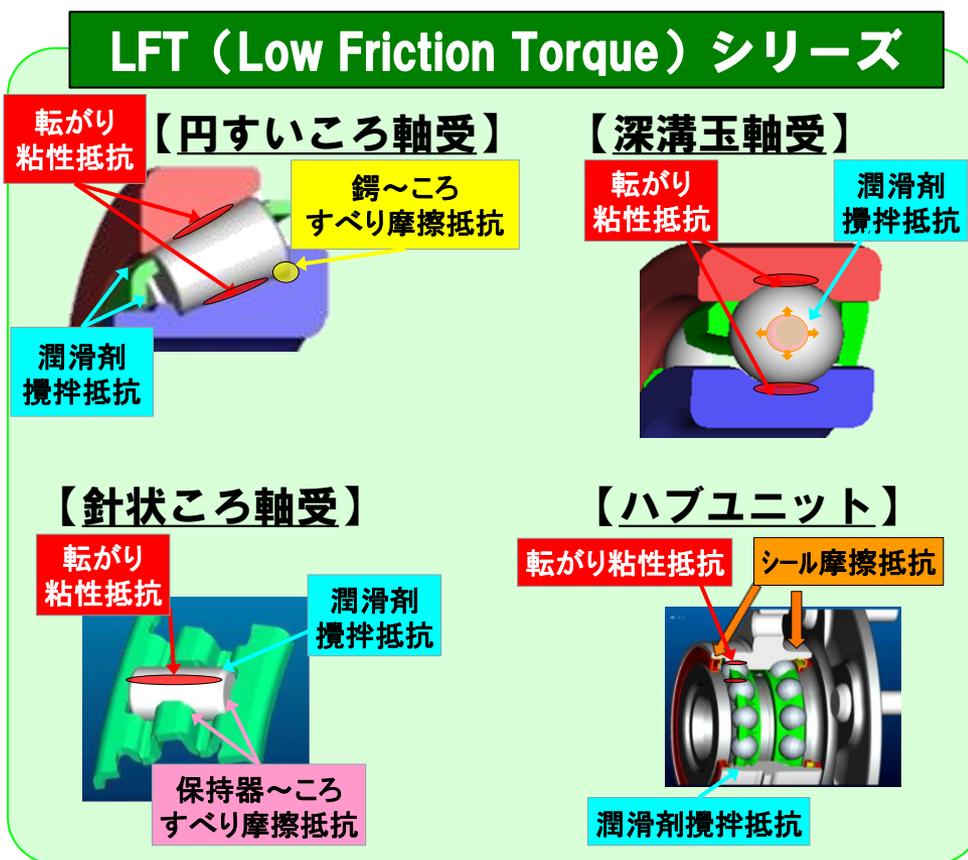
- ①専用設計の複列アンギュラーベアリング
(小型軽量化、高剛性を実現)
- ②フローティング構造
(中立でのステアリングフィーリング及び路面情報の伝達性向上)
- ③ボールねじ技術
(摩擦、トルク変動、振動抑制)
- ④冗長設計モータECU
(アシスト継続性向上)

3. 目指す姿（製品開発）

【製品開発でCO₂極小化社会の実現に貢献】

■軸受製品

要素に着目したトライボロジーの深化、流量制御技術などを織り込んだ低トルク技術により、あらゆる産業機械の損失低減に貢献



4. 2020年環境行動計画

2050年からバックキャスティングし、その第1ステップとして策定

【製品・技術】

CO₂削減貢献量：80万 t/年以上

ジェイテクトグループ全体のCO₂排出量と同等以上のCO₂を
製品による削減で貢献

【低炭素社会の構築】

単体	CO ₂ 排出量	： 原単位目標×生産量
	CO ₂ 原単位	： 15%減（2008年度比）
	物流CO ₂ 原単位	： 8%減（2012年度比）
グローバル	CO ₂ 原単位	： 10%減（2012年度比）

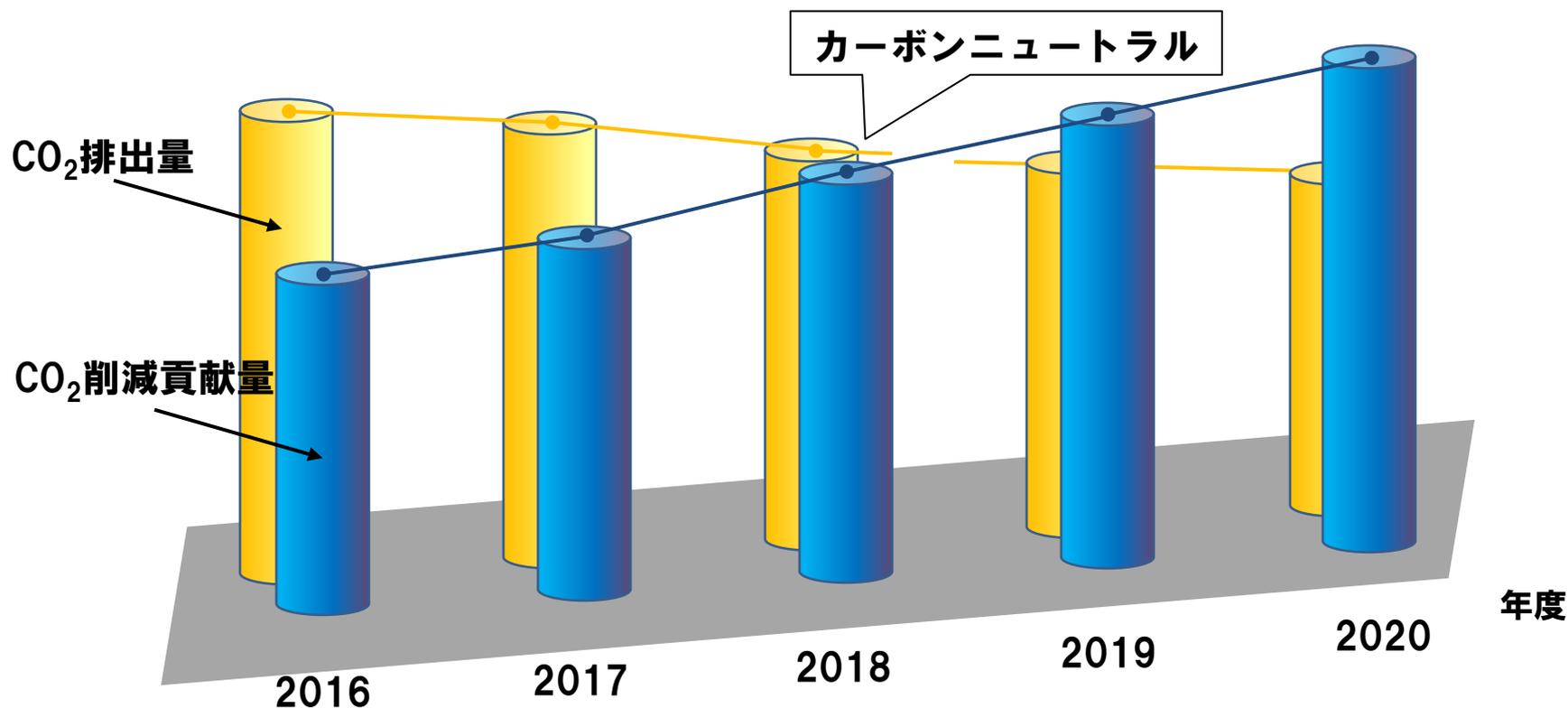
【循環型社会の構築】

単体	廃棄物原単位	： 18%減（2008年度比）
	梱包資材原単位	： 8%減（2012年度比）
	水使用量原単位	： 8%減（2012年度比）
グローバル	廃棄物原単位	： 8%減（2012年度比）
	水使用量原単位	： 8%減（2012年度比）

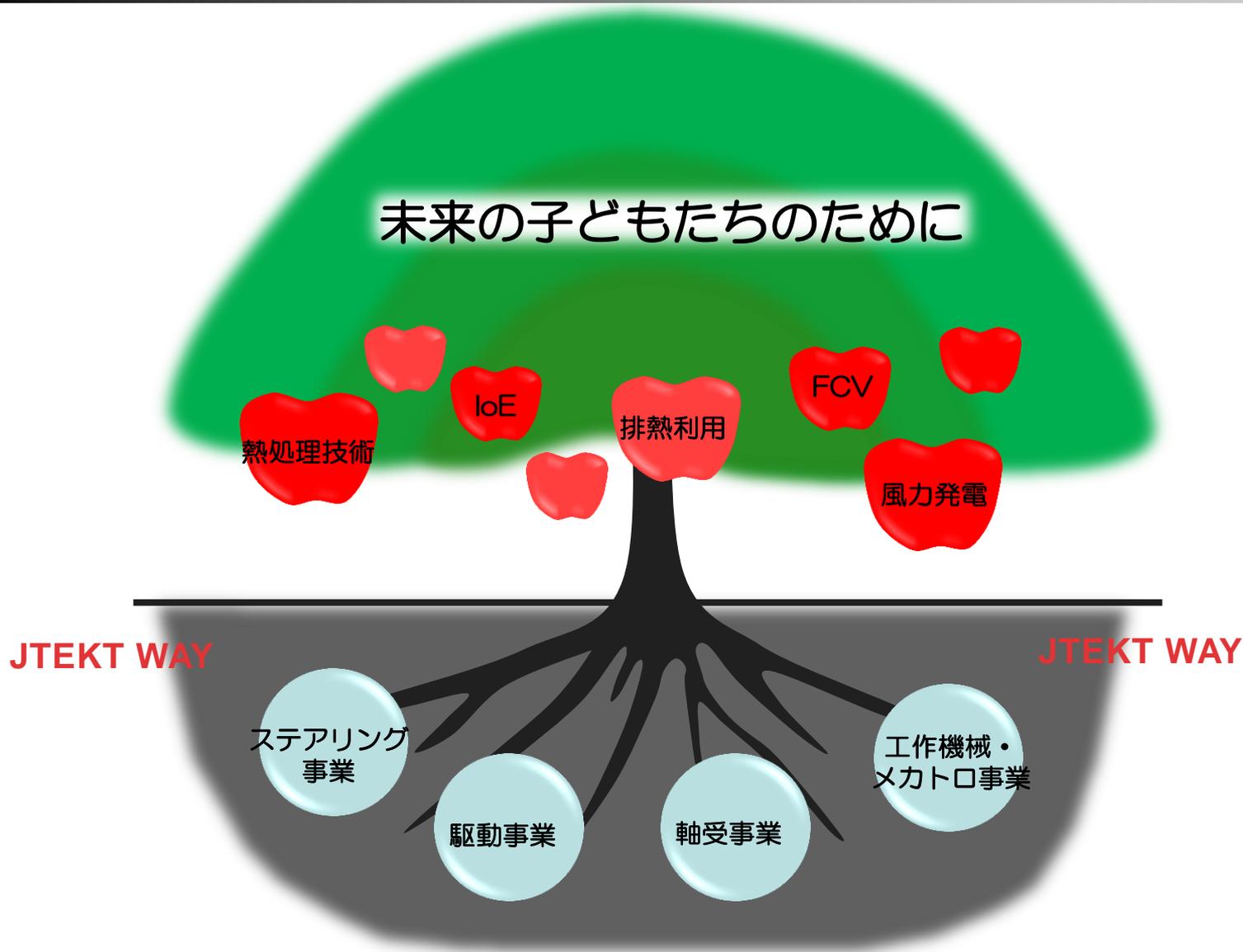
製品によるCO₂削減貢献

製品の効率改善などにより、製品使用時のCO₂排出量を削減し、ライフサイクルで地球温暖化防止に貢献する取り組みを推進

2020年には、生産活動に伴うジェイテクトグループ全体のCO₂排出量と同等以上のCO₂を製品による削減で貢献していきます。



- ・CO₂排出量は国内・海外グループを含めたグローバルCO₂排出量
- ・製品による削減貢献量はグローバルで算出した貢献量を単年度で表記



ジェイテクト「環境チャレンジ2050」のイメージ図